

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	住宅販売会社 (代表)	来客数の動き	・来客数が増えている。業者や大工の予定が詰まっており、受注がかなり先まで入っている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今月は例年、3か月前より良くなるが、例年以上に消費動向や売上が良くなっている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・年末商戦に向けての印刷物の注文が増加した。喪中、年賀状が大半を占めるが、1人あたりの客単価が増加している。ただ、来客数の減少が懸念材料である。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、冬物商品の動向が良くなっている。店舗入替えによる効果もあるが、好調である。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・2店の競合店の動きをみると、1店が3か月前の前年比が1.4%増、今月が同6%増であった。またもう1店は3か月前の前年比が1.0%増、今月が同5%増となっている。当店は3か月前の前年比は4.4%増、今月が同4%とまずまずで、来客数が前年を上回っている。そのほか、非食品の1品単価が前年比3.2%増、客単価で同4%増とそれぞれ前年を上回っている。食品の1品単価も前年から約3%程上回っているが、客単価は前年並みである。ちなみに今月も北海道物産展の売上は3億円を超え、前年比4%増とかなり好調な催事となっている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月中旬、一時的に強い冷え込みがきたため、冬物衣料を中心に売上が好調となっている。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・冷え込みが進み、昨年に比べコート類の動きが好調である。昨年は冷え込みが鈍く新調しなかった客も相当数いた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年と比較して気温が低温傾向にあり、衣料品中心に防寒関連の商品の動きが非常に良い。宝飾関連の商品も比較的動きが良い。また、イベント催事等も好調に推移している。
		家電量販店（従業員）	来客数の動き	・寒くなるにつれ、暖房器具が売れるようになっている。
		その他専門店 〔コーヒー豆〕 (経営者)	お客様の様子	・コーヒーの消費が増える時期である。お歳暮の早期受付を始めて、事前の注文も増えている。それにより、売上が増加している。
		その他専門店 〔書籍〕（地区支配人）	販売量の動き	・競合店舗の撤退により、関連商品の販売量に下げ止まりの傾向が出ている。全体的にはまだ厳しいが、3か月前よりは回復の兆しが一部みられる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・昨年同期よりも販売数が良い。
		変わらない		商店街（代表者）
商店街（代表者）	お客様の様子			・客の様子をみると、季節の変化に伴い、若干消費に活力がうかがえる。
商店街（代表者）	来客数の動き			・11月に入って寒くなったことから、防寒具等の衣料品に動きが出てきた。
一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き			・大分涼しくなり、8月よりはギフトとしての花の需要が良くなるまいとはいけないが、残念ながら良くなかった。新規オープン等お祝いの需要が期待ほどなかった。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き			・寒くなり年間通して最も売れる時期であるが、売上は例年に達していない。外交販売も店頭販売も減少している。
百貨店（売場主任）	それ以外			・気温が下がり、コートやダウン等の防寒衣料、マフラーや手袋等の防寒雑貨の動きが良くなったが、気温に左右されない商品の動きが良くない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子			・友の会満会やクレジット10回無金利、恒例の北海道物産展等の来店促進策の効果があつた。また、寒波到来により、冬物衣料や雑貨の動きが好調となった。店外及び地方開催催事での集客は好調となったが、クレジット催事期間はクレジットシェアが伸びただけで、売上全体には貢献せず、依然として慎重な購買姿勢は続いている。

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ジュエリーや時計、婦人服のプレタ等の動きは良くなっている。ただ一般的な婦人服、紳士服の動きが少し弱くなっている。ボリュームのあるところが落ちているので、全体的な売上は厳しい状況である。やはり、総選挙の問題もあり需要が多少前倒しとなっている。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・催しやイベントを増やし、売上は前年実績を維持しているが、来客数が増加しない。結果的に一部の客の客単価アップに支えられた売上構成になっている。
百貨店（営業政策担当）	来客数の動き	・近隣の百貨店は各地区内の店舗ごとで一進一退の状況だが、エリア全体では小康状態にある。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・気温の変化とともに、秋冬の防寒商品等ファッション商品が動き始めた。9、10月の減少分を取り戻す勢いで売れているものの、この勢いが続くかどうかは分からない。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店の影響で、今月は食料品の動きが前年比5.7%減で推移している。来客数も前年比6%減、客単価、買上点数は前年並みである。来客数の減少が続いており、1年間この流れで推移すると見込んでいる。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食品面は価格を安くする等、集客を図った結果、来客数の回復傾向が若干であるがみられる。衣料品に関しては、気温の差もあり、やや好調に推移している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・一部競合店が出店した地域での売上は落ちているが、全体的に大きな変動は少ない。製造業が多い地区の売上が伸び悩んでいる。
スーパー（業務担当）	来客数の動き	・歳暮商戦がピークに差しかかり、ハムや生鮮関連の好調により、客単価は増加傾向にある。ただし来客数は前年比では横ばいとなり、予想よりも伸長率が低い。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・非常にシビアな客の購買行動が続いている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・昨年と同じ時期にキャンペーンをしているが、客単価に関しては昨年と変わらない。ただ、たばこ購入の客が若干増えており、売上自体は前年よりも少し伸びている。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・11月はコート等を含むまとめ買いの多い月であるが、今月は単品買いが目立った。客は、今必要な物だけを購入している。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・寒くなり、物が少し動き始めている。1品当たりの単価が高いため、8月より売上は良いが、景気が良いということではない。客は必要な物を最低限しか購入しない。
衣料品専門店（チーフ）	来客数の動き	・外国人客の来客数が増えており、売上を伸ばしている。日本人客の売上は厳しい状況である。
家電量販店（企画・IR担当）	販売量の動き	・3か月前と比べ、スマートフォンやタブレット型パソコン、季節商材等の売上が伸びている。ただ、依然としてテレビやDVDレコーダー等が回復せず、全体としては3か月前の傾向が続いている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月も前月に引き続き、新車の受注状況が目標を下回っている。エコカー補助金制度が終了した9月以降は厳しい状況が続いている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は低下傾向である。寒さが増し、灯油の需要にも期待していたが、燃料油の販売量は昨年並みである。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	単価の動き	・高額商品が動いておらず、客単価が落ちている。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数は昼夜問わず前年比マイナスとなっている。
高級レストラン（専務）	販売量の動き	・旅行者が南九州に多く、郷土料理店では昼の客が増えている。しかし、地元の夜の宴会が少なくなっているため、状況的には変わらない。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宴会や披露宴、レストランに関しては、通常通り売上が上がる。しかし、宿泊に関しては尖閣問題以降、中国からの観光客が全く来なくなり厳しい。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・市内では学会やイベント、あるいはコンサート等が続いており、客の動きが非常に活発である。

旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内は全方面で前年を上回っているが、韓国への大幅な減少の影響が大きく、総じて前年割れとなっている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・今回いろいろなイベントがあったが、少し動きがあるだけで、その後、昼夜共に人もタクシーも動きが悪かった。	
タクシー運転手	来客数の動き	・昼間の稼働は非常に良く、特に県外客のゴルフや観光の予約があり、ほとんど毎日のように稼働した。ただ、市内の繁華街、特に夜の動きが悪い。	
通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りが厳しい状況が続いている。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年末商戦の盛り上がりへの端緒にあるものの、販売量に例年の力強さはない。	
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・スマートフォンは新商品が発売となり、発売直後は売上台数が一時的に上向くが、全体の販売台数は例年より厳しい。スマートフォン関連のアクセサリ商品やスマートフォンソフト売上も横ばいとなっている。	
通信会社（総務局）	販売量の動き	・売上増につながる販売施策を積極的に進めているが、客の反応はまだ鈍い。	
ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・ゴルフのプレー代について、単価の高いゴルフ場が苦戦しており、イベント等を行い、安い料金のゴルフ場に客は集中している。また、プレー代以外のショップの販売や茶店、レストランの販売が非常に乏しい。客の財布のひもは固くなっている。	
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・11月は予想外に雨が多く、それも週末に集中している。忘年コンペとして週末の予約はフルに入るが、雨が降ると予約は当日キャンセルとなり、半減する。来客数はベストゴルフシーズンの目標には届かない。	
美容室（店長）	来客数の動き	・客の動きが少なく、人があまり出歩いていない。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・寒さが厳しくなり、サービスのキャンセルや入院する客が少しずつ増加しており、客数が伸び悩んでいる。	
住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・マンション戸建の売行きが好調である。ただ場所や物件にもより、良い物件については客がすぐにつく。全体としての景気はそれほど悪くない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・客は政界への不信により、この先の生活に対する不安があり、購買意欲が感じられない。景気は悪くなる一方である。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・政治経済の状況が悪化し、商店街では売上が悪化する一方である。従業員を雇わずに家族や夫婦、1人で経営する店が増えている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・衆議院が解散し、総選挙が近づくなかで、客は買物どころではない。客単価も来客数も下がっている。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・し好品である果物の買い控えがかなり多く、果物の相場が成り立たない。またギフトシーズンが始まったが、商材の価格が上がらず、なかなか難しい状況にある。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みを維持しているが、客単価が大きく下ぶれし、全体では前年比10%程度のマイナスである。気温の低下により、アパレルはやや持ち直しの傾向がみられるものの、飲食サービス関連テナントが大変厳しい状況となっている。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・いろいろな部分で先行きが見えないため、客は買い控えをしている。また、低単価の物を選んでいる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数は変わらないが、1品単価、来客数共に低下傾向である。客は価格に敏感になっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・11月は気温の低下があり、衣料品は好調に推移したが、ベースとなる食品の売上がなかなか上がらない。来客数の増加がみられず、厳しい状況が続いている。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・商店街全体でも、当店においても来客数の減少が顕著となっている。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電業界では、まずテレビが全然売れない。併せて冷蔵庫や洗濯機、エアコン等にも売上全体を引っ張る核となる商品がなく、景気はあまり良くない。
	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・テレビコマーシャルやチラシ等の効果が全く出ない。客足が遠退いている。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・修理目的の客ばかりの来店で、購入目的の客が少ない。

	住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・毎月のキャンペーンは春以来回復の兆しはみえないが、店舗での販売は前年並みだった。新規部門での販売促進を経費の面から一部変更したが、心配したほど売上には影響しなかった。	
	その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	販売量の動き	・昨年より受注の動きが鈍い。客からの商品の注文依頼が遅れている。	
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・11月に入り、気候的に少しずつ気温が下がり、大分名物のフグが出るようになった。多少は先月、先々月よりも客が入るようになっているが、依然厳しい状況である。	
	居酒屋 (経営者)	それ以外	・忙しくなるべき年末ではあるが、予約は週末に偏り、平日の人の流れが非常に悪い。昨年に比べても悪い。	
	旅行代理店 (企画)	販売量の動き	・外需の縮小や電力関連の企業を中心に経費の抑制が進んでおり、出張需要に減少の兆しが表れている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・11月は観光シーズンもあり、その動きはまあまあ良かった。ただ、月末は忘年会のシーズンであるが、そういう動きがほとんどない状況で、歓楽街には客がいない状況である。週末になると少し動きはあるが、それ以外はほとんど動きがない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・総選挙が始まり、先がみえない状態で、客はお金を使うのを控えるため、景気はあまり良くない。	
	美容室 (経営者)	お客様の様子	・公務員は安定しているのかと思ったら、給料が下がったりしており、客の節約傾向がひしひしと感じられる。商売する私たちも日用品等はなるべく安く抑えるよう心がけている。	
悪く なっている	一般小売店 [鮮魚] (店員)	来客数の動き	・売れない状況が長く続いている。なぜなのか見当もつかない。	
	スーパー (店長)	来客数の動き	・来客数が前年比8%と減少している。昨年、競合店の開店があったということもあるが、来客数の減少幅が拡大している。	
	スーパー (総務担当)	販売量の動き	・来客数は横ばいであるが、低調な推移を示している。また、販売単価は低単価を堅持せざるを得ない状況となっている。また購買傾向も当用買いが主流となっており、買上点数が増えず、減収減益となっている。来客数、単価共に前年割れとなっており、厳しい商戦が続いている。	
	コンビニ (エリア担当)	競争相手の様子	・競合店の出店が多く、当店に大きく影響している。特にたばこや酒等の売上が低迷し、全体的な売上が大きく下がっている。	
	コンビニ (店長)	販売量の動き	・販売量が2か月前より減少している。また前年比5%減となり、景気は悪い。	
	コンビニ (販売促進担当)	販売量の動き	・グループ会社で最も売上が大きい量販店において、特売を行っても販売総数の落ち込みが止まっていない。その分をコンビニ等でもカバーできず、総体的に市場が落ち込んでいる。	
	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・単価が下がっており、かなり厳しい状況である。	
	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・ようやく商店街改造工事が終わったが、およそ3年間かかった工事期間に離れた客足が戻っていない。	
	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・客がなかなか買物しない。年金世代が増え、決まった可処分所得のなかで、旅行や遊びに出費しており、洋服の購入は減っている。旅行等についても安い価格帯のものに集中している。	
	都市型ホテル (販売担当)	お客様の様子	・会社の売上が低迷し、集客も少なく、景気は良くない。政治も不安定で良い動きがみえない。	
美容室 (経営者)	販売量の動き	・だんだん年末に向かっていのに売上は上がらず、景気は悪いほうに流れている。経済の活性化がどんどん先送りされており、客の購買意欲が落ちている。客の購買意欲を上げるために、中小企業の活性化を計画してもらいたい。		
企業動向関連	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・季節的に商品主原料の収穫期にあたり需要が多い。

(九州)	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月は10月に比べると少しは動きが良くなっている。しかし例年に比べると依然厳しい数字である。それでも後半あたりから冷凍食品向け原料肉の引き合いが少しずつ入っている。居酒屋等の外食は厳しいが、スーパー向けに関しては11月に入って寒さの影響もあり、鍋物の食材の引き合いが出始めている。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・生乳関係の販売は今のところあまり変わらない状況であるが、飼料価格が上がっているのが懸念される。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月は一番商品が動く時期であるが、総選挙の関係もあり、商品の荷動きが悪い。受注、販売は昨年より10%程度落ちている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械設備や機械部品加工の受注量が依然として少ない。またこれからの仕事量においても見積引き合い等が少なく不安が募る。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・総選挙以外に11月は地方選挙があり、選挙意欲をおおるために、地方都市では通常の月より発注量が多かった。ただ、民間での発注は依然少なく、期待できそうにない。官公庁の下請については多いが、見積単価は元請の利益確保後に下請に回ってくるため、非常に厳しい。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きがあまり良くない。食品、アパレル、その他の商品も非常に荷動きが悪い状態である。
		通信業（経理担当）	それ以外	・いよいよ12月だというのに量販店へ出かけても依然として人のにぎわいがみられない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・消費税増税を控え、市内近郊では賃貸や分譲物件の新築が盛んな状況である。受注量は、建設業において大手、中小問わず増加傾向にあるものの、人手不足で労務費が高騰し、利益の増加は期待できない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・倒産件数等が若干増加したものの、金融を取り巻く環境に特段の変化はみられない。
				経営コンサルタント
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・周りの経営者と話をしていると、非常に厳しい、景気が悪いという話をよく聞く。個人的には街中の人出の様子等から、夏より良くなっていると感じる。ただ、昨年がちょうど九州新幹線全線開通後のイベントで街中がにぎわっていたので、対前年で考えるとかなり悪くなっている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先と情報交換をしても、業況が大きく変化しているという話はほとんど聞かない。
やや悪くなっている		繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・同業者に尋ねると、この1～2か月急速に受注が減ったと聞くようになった。会社は連休を取るようになったと聞く。取引先にかかなりの在庫がある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月受注量が減少しており、回復の見込みが非常に少ない。今後どのように経営するのか、様々な営業努力はしているが、なかなか方向性を見いだすことができず、大変苦慮している。
		精密機械器具製造業（従業者）	受注量や販売量の動き	・受注計画の見通しがつかず、生産計画数が落ちてきている。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・荷物の取扱量が前年を下回ってきている。
		金融業（従業者）	取引先の様子	・電気機械、自動車関連の生産が減少している。また、飲食店への客足が遠のいているほか、地元観光地のイベントへの来場者が伸び悩む等、消費者の節約ムードが強まっている。
悪くなっている		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーからオーダーがほとんどない状態が続いている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中国向け輸出車両の大幅な減産により、予算計画に対して3割減少している。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・飲食業での宴会が少なくなり、酒類の売上が必然的に下がっている。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・市町村発注の設計や調査等の公共事業の発注量が減少し、価格競争が激しくなっているため、受注量が昨年同時期と比べて15%減となっている。利益が残らないため、人件費の削減等をしないとイケない状況になっている。
雇用関連	良くなっている	—	—	—

(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・労働派遣法の改正で日雇派遣が落ち込んだが、年末商戦に向けて短期販売の派遣依頼が増えてきている。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・先月と同様、注文数が増えている。年末需要も増えているが、直接雇用も増えている。忙しい時だけ人材を必要とする企業が、継続的に雇用できるようになり、直接雇用へ切替えている。
		職業安定所 (所長)	求人数の動き	・新規求人数は前年比31.7%増、前月比18.0%増となり、全業種で増加となった。常用もパートも同様に増加している。新規求職者数は前年比で減少が続いていたが、13か月ぶりに増加に転じた。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・新規求人数は季節的要因を除くと増加傾向にあり、新規求職者数は減少傾向にある。
		学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・昨年度の求人件数は前年度を若干上回ったが、今年度の求人件数は昨年度10月末現在より更に上回っている。
変わらない		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数については、堅調に推移している。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・新規求人数は前年同期比で増加したものの、12か月連続で前年同月比減となっていた新規求職者数が増加に転じたことが懸念材料となる。
		民間職業紹介機関 (社員)	求人数の動き	・夏場以降、派遣需要は盛り上がり欠けている。電子部品の企業では生産調整に入るため、派遣社員の休業を申し入れしてきたところもある。
やや悪くなっている		人材派遣会社 (営業)	求人数の動き	・求人数が、上期に比べて減少している。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・これまで求人件数が前年を上回ってきたが、その動きが止まってきた。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人広告数が下げ止まらない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・新聞の求人広告の出稿数は前年比約40%減と低調である。年末総選挙により、求人広告が増える要因が見当たらない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	雇用形態の様子	・夏以降の急激な景気悪化で、ある広告代理店では不景気による売上減少の対策として、退職後の雇用者の雇い止めや冬の賞与カットを打ち出す等、厳しい雇用情勢が続いている。
		学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・企業の採用計画のヒアリングのなかで、できるだけ体制をスリム化して採用人数を抑制したいと考える企業が増えつつある。
悪くなっている		人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・緊急雇用予算のばらまきも今年度をめどに終わり、自治体に組み込める予算が無い状態である。中小企業も観光も補助金無しの状況でますますひっ迫している。
		民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・人材需要の大きな金融や情報通信、自動車、半導体、エレクトロニクス業界が軒並み採用を抑制している。新規の求人数は前年同期比でマイナスである。